令和3年度 学校関係者評価報告書

学校法人有坂中央学園

中央農業大専門学校

学校関係者評価委員会

学校法人有坂中央学園 学校関係者評価委員会は「令和３年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を令和４年　９月１５日に実施したので、下記のとおり報告します。

１．学校関係者評価委員

業界関係者：竹内　佳晴 (群馬の食文化研究会)

業界関係者：宮田　祐介（有限会社みやた農園）

卒 業 生：栗原　諒雅

保 護 者：高木　妃朗美

２．平成２８年度自己点検・自己評価における学校関係者評価(中央農業大学校 )

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価項目 | 評価 | 評価に対する今後の学校の取組等 |
| １教育理念・目標 | ●建学の精神のもと、教育理念・目標を定め、社会のニーズに対応した社会人の育成に努力している。  ●農業はスマート農業時代に入り、その技術は日々進化している。進歩する先端技術を把握しそこで活躍できる農業関係者の育成に取り組んでいる。 | ○今後も本校の特色を生かし、学生に理論と実践の両面から指導を行っていく。  ○スマート農業を積極的に取り入れている各種関連団体の事例を把握し、常に最新の情報を入手して、それを学生に還元していく。 |
| ２．学校運営 | ●運営方針及び事業計画が策定されており、また運営組織やその意志決定の過程も明らかになっている。  ●教育活動に関する情報公開がなされているものの、HP以外からの情報発信を増やし、最新の情報公開の幅を広げる必要がある。 | ○情報発信の素材は教職員だけでなく、学生からも集めていく。それにより、新しい情報、読み手の興味関心の生まれる情報公開をする。  ○広報活動において紙媒体のみにならず、SNSを活用した幅広い本校のPRができるようにする。 |
| ３．教育活動 | ●教育課程の編成・実施方針等が策定されており、職業教育・キャリア教育の視点に立った体系的なカリキュラムが編成されている。  ●学科の再編、カリキュラムの専門化と時代に即した変化や学生指導の細分化が進む中で、それらに対応できる教職員の配置について、配慮していく必要がある。 | ○業界・社会が求める人材を育成するため、特別授業や企業見学の実施など、業界や企業等と連携し、より実践的な技能を身に付ける教育に取り組んでいく。  ○学生のアンケートも基に改善点の検証をし、新たな授業展開、学生指導に役立つ教育体制への取り組みを実施する。 |
| ４．学習成果 | ●就職率は、卒業までに100％を達成し、高い水準を維持している。  ●農業技術検定だけではなく農業者に求められる資質として農業簿記検定資格習得にも重点を置いていることは、評価できる。  ●退学者が前年度より1名から本年度3名に増加した。退学者の増加を防ぐための取り組みが必要である。 | ○就職率だけではなく、企業研究を十分に行わせ、就職後のミスマッチがなくなるように、指導していく。  ○農業者に求められる資格であることを認識させ、モチベーションの維持を図る。  ○欠席が多くなると退学になる確率が高くなるため、本校入学前に登校習慣のない学生や欠席の続く学生に対しては、家庭との協力体制をとる。また、全教職員で対応にあたる。必要に応じて、学生と個別面談を、担任、学科長、教務部長、副校長とステップを踏む形で実施していく。また、カウンセリングを希望する学生には、スクールカウンセラーによるカウンセリングを実施する。 |
| ５．学生支援 | ●担任の業務は多岐にわたる。特に学生指導は担任のみならず、全教職員で取り組むことで、担任業務の軽減につなげることが必要である。  ●学生の特性に合わせた就職支援を行い就職率100％を達成した。学生の特性を把握するために適性検査や個人面談を実施している。 | ○毎朝の朝礼・終礼の場で、問題点の共有（報告・連絡・相談）、全教職員協力体制の下、学生対応を図る（継続中）。 さらに毎月定例教務会議を実施し、教職員間で情報の共有化を図る（継続中）。  ○保護者会等も活用し、保護者との密な連携を図り、学校教育への理解を促進していく。 |
| ６．教育環境 | ●コロナウイルス感染予防の観点から学生個別のインターンシップが実施されていない。  ●防災訓練を実施。万が一に備え、職員間の役割も確認している。 | ○コロナウイルス感染予防を継続しながら、かつ状況も見据えながら、インターシップ受け入れ先企業と連携していく。 |
| ７．学生の受入れ募集 | ●本校の知名度が県外ではまだ低い。本校の特徴をHP、SNSでの発信やパンフレットの送付のみならず、直接高校を訪問する等して、知名度の向上につなげる必要がある。特に工業系、商業系分野の高校へも農業分野との関連性を伝える必要がある。 | ○現在の農業における課題と本校のカリキュラムを周知するとともに、興味関心のある高校生を掘り起こす。  ○広報担当にとどまらず、職員一丸となって本校のＰR活動を実施する。  ○県内外の高校一覧を作成し、訪問実施の「見える化」に勤める。  ○現状のコロナウイルス感染予防対策による広報活動の制約に対応する。 |
| ８．財務 | ●財務体質が健全であり、適切な財務運営  が行われている。  ●今後の新たな事業展開を考えた時の予算編成が課題となる。 | ○予算作成では可能な限り詳細まで詰め、収支バランスが予算と大きく異ならないようにする。  ○安定した学校経営のため、入学者数の確保に向けた募集活動の強化、退学率の低減に努める。 |
| ９.教育の内部質保証システム | ●法令を順守し、自己点検、自己評価を行うとともに、情報公開している。  ●個人情報の取り扱いに留意している。 | ○朝礼、終礼、教務会議等を通じて、自己評価で提起された問題の共有をはかり、全体体制で随時改善に取り組んでいく。 |
| １０．社会貢献・地域活動 | ●コロナウイルス感染拡大防止により、外部へのボランティア活動は実施していないが、収穫野菜の安価販売や地域清掃活動を通じて継続した地域貢献活動を行っている。 | ○外部からのボランティア要請があった場合、社会情勢やコロナウイルス感染防止対策状況を見ながら実施を検討していく。 |
| １１．国際交流 | ●留学生の申請取次者証明書を所有している職員はいるが、入管での申請手続きに時間を要する為、業務との兼ね合いを考慮すると入管へ行ける日が限られてしまうことも多く、負担がかかってしまう。 | ○留学生の申請取次者証明書を習得している教職員が増えるように、講習会があれば可能な限り参加してもらう。  ○留学生の指導を充実させるため、専任の日本語講師の配置を検討する。本科入学希望者については日本語能力検定2級（N2）以上の条件を遵守してもらう。 |

３．総評

上記１１項目に対し、委員による評価は良好であったことから、中央農業大学校の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価する。

　農業分野もスマート農業の推進をはじめとした時代に即した新たな取り組みが求められている。

そんな中で、人材育成教育要件を備えた教職員の確保をお願いしたいとのご要望をいただいた。それらに対応できる教職員の確保を視野に入れたい。

　本校で学んだ卒業生は、県内外の幅広い分野で活躍している。今後はより一層の本校と卒業生のネットワークの強化や、新規就農のサポート体制を構築することにより、大きなメリットが生まれ卒業生の安心感にもつながるといった提言もいただいた。

以上